

2017年4月27日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 清水谷 卓

インド国北東州道路連結性改善事業(フェーズ3)  
(協力準備調査(有償))  
スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時:2017年3月6日(月)13:59~17:06
  - ・場所:JICA 本部 (1階 111 会議室)
  - ・ワーキンググループ委員:石田委員、殖田委員、清水谷委員、鈴木委員、米田委員
  - ・議題:標題事業に係るスコーピング案についての助言案作成
  - ・配付資料:1) スコーピング案 事前配布資料  
2) 質問回答表  
3) 追加資料
- ・適用ガイドライン:国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第79回委員会)

- ・日時:2017年4月14日(金)14:30~16:40
- ・場所:JICA 本部 (1階 113 連結会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

## **助言**

### **代替案検討**

1. 代替案の比較検討においては、事業の意義も勘案した上で、環境面、経済面、社会面を中心に重要な評価指標を抽出し評価を行うこと。技術面からの評価は、必要に応じて加味し、これらの比較検討の結果を DFR に記述すること。
2. 重要な評価指標の具体的な抽出方法に関しては、スコーピングマトリックスの生活環境、自然環境、および社会環境の項目を勘案し、それら重要な影響項目に関連する指標を再検討すること。また、指標の選定理由も DFR に記述すること。
3. 評価指標における評価方法に関しては、影響度が同程度のものに対して厳密に優劣をつけるのではなく、影響度が同程度のものは同程度と評価できる設定を設けること。
4. 橋梁の線形による代替案の作成に関しては、それぞれの代替案の選定理由を明らかにした上で、比較検討を行うこと。

### **環境配慮**

5. 高架橋の方式、橋脚の数等で環境影響も変わると想定されるため、これら橋梁方式による環境影響(特に、水生生物への影響)の評価を明らかにし、その結果を DFR に記述すること。
6. 生態系影響、特に、ガンジスカワイルカへの影響については、専門家あるいは NGO 等へのヒアリング、類似事例の調査を行って評価し、必要に応じて影響緩和策を DFR で提案すること。
7. 建設土砂の入手先、建設資材置き場、土捨場にかかる環境管理計画を作成し、DFR に記述すること。

### **社会配慮**

8. 河川工作物を設置することで流況が変わると想定されるため、洪水危険度を評価し、その結果を DFR に記述すること。
9. 児童労働に対する具体的な対策を DFR に記述すること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

10. 調査対象地域で漁業を行う人々は居住場所に関わらずステークホルダー協議の対象者であり、協議に招待すること。本事業の中州の住民への裨益の可能性についてもステークホルダー協議等を通じて検討すること。

以上